

上野アーティストプロジェクト2025

平野利太郎
HIRANO Toshitaro
尾上雅野
ONOE Masano
岡田美佳
OKADA Mika
伏木庸平
FUSEGI Yohei
望月真理
MOCHIZUKI Mari

Embroidery
Expression of Life
from the Rhythm of a Needle

刺繍

針がすくいだす世界



2025 11/18[㊞] → 2026 1/8[㊞]
休室日=12/1[㊞]、15[㊞]、12/22[㊞]-1/3[㊞]、1/5[㊞]
東京都美術館ギャラリーA・C

When Embroidery is Born
Modern & Contemporary
Thread, Needle and Fabric Creations
Seen in the Tokyo Metropolitan Collection

2025 11/18[㊞]
→ 2026 1/8[㊞]

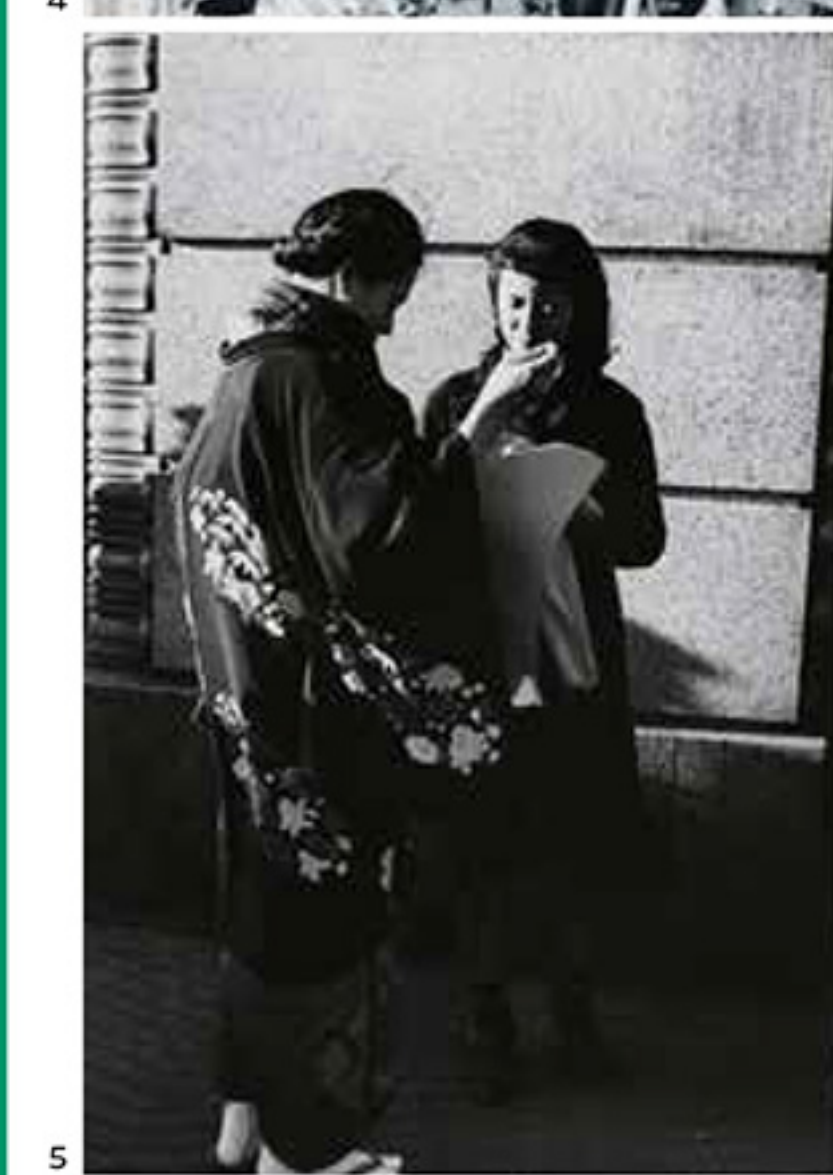


刺繍が うまれるとき

東京都コレクションにみる
日本近現代の糸と針と布による造形

東京都江戸東京博物館、東京都写真美術館、東京都現代美術館の所蔵品から、「刺繍」や「刺子」と呼ばれるような糸・針・布による造形物とそれに関連する資料を、時代ごとに4つの章に分けて紹介します。特別に、女子美術大学工芸専攻が所蔵する明治末・昭和初期の学生たちが制作した「刺繍画」も展示いたします。
※会期中一部展示替えを行います(前期11/18〜12/14 後期12/16〜1/8)

コレクション展



休室日=12/1[㊞]、15[㊞]、
12/22[㊞]-1/3[㊞]、1/5[㊞]
東京都美術館ギャラリーB
観覧無料

開室時間=9:30-17:30 (金曜日は20:00まで)
*入室は開室の30分前まで
主催=東京都、東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)
連携=東京都江戸東京博物館、東京都写真美術館、東京都現代美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)



Chapter 1 Embellishing & adorning with embroidery: Early-modern decorative embroidery
Chapter 2 Studying & learning embroidery: Women's education (general and liberal) and hobby crafts
Chapter 3 Guarding & praying with embroidery: Embroidery in war and disaster
Chapter 4 Considering & thinking with embroidery: Contemporary artists and embroidery

- 第1章 刺繍で飾る・彩る
― 近代の刺繍装飾
- 第2章 刺繍を学ぶ・習う
― 女子教育・教養・趣味
- 第3章 刺繍で守る・祈る
― 戦争・災害と「刺繍」
- 第4章 刺繍で想う・考える
― 現代作家と「刺繍」
青山悟／秋山さやか／伊藤存／高田安規子・政子／福田尚代／ミッシェン・インヴィジブル

1. 《反物に刺繍をする女性たち》明治期・20世紀、東京都江戸東京博物館蔵 2. 《相良刺繍菊意図巾着》江戸時代・17〜19世紀、東京都江戸東京博物館蔵 3. 《紅染繪子鶴刺繍袋物》明治期〜大正期・19〜20世紀、東京都江戸東京博物館蔵 4. 《師範科教室(佐藤裁縫女学校)》近代・20世紀、東京都江戸東京博物館蔵 5. 木村伊兵衛《千人針》1940年、東京都写真美術館蔵◎木村尚子 6. 青山悟《Map of The World》2014年、東京都現代美術館蔵 7. 福田尚代《『ソラリスの陽のもとに』》2003年、東京都現代美術館蔵 Photo: Ichiro Otani

望月真理作品解説&カンタワークショップ

日程＝ 11/22㊤、11/25㊤、12/5㊤、12/7㊤ いずれも13時～16時
講師＝ 麻生恵（望月真理長女）
会場＝ 東京都美術館 ギャラリーA
定員＝ 各回6名
参加費＝ 2,000円（材料費） ＊「刺繍」展の当日の観覧券が必要

作家と一緒に作品にさわるワークショップ

日程＝ 11/23㊤、12/8㊤ いずれも11時～12時
講師＝ 伏木庸平（出品作家）
会場＝ 東京都美術館 ギャラリーA
定員＝ 各回8名
参加費＝ 無料 ＊「刺繍」展の当日の観覧券が必要

ダンス・ウェル

東京都歴史文化財団施設間連携事業（東京都写真美術館）
「ダンス・ウェル」は、パーキンソン病と共に生きる方を主な対象に、こどもから大人までどなたでも参加できるダンス・プログラムです。展覧会を鑑賞し、そこから抱いた感覚やイメージを、からだ全体を使って表現してみませんか。
日程＝ A 11/30㊤11時半～13時、B 1/4㊤ 14時～15時半
講師＝ A なかむらくるみ（ダンス・アーティスト、カラダ媒介人、ダンス・ウェル講師）
B 白神ももこ（振付家、演出家、「モモンガ・コンプレックス」主宰、ダンス・ウェル講師）
会場＝ 東京都美術館 スタジオおよびギャラリー
定員＝ 各回15名
参加費＝ 無料 ＊「刺繍」展の当日の観覧券が必要

申し込み方法

いずれも当館ウェブサイト内の専用申し込みフォームから
事前予約制先着順（10/16㊤午前10時申し込み開始予定）
＊手話通訳が必要な方は申し込み時にお知らせください ＊詳細・最新情報はこちら



写真＝鈴木静華

〒110-0007
東京都台東区上野公園8-36
03-3823-6921(代表)
交通のご案内＝JR上野駅「公園改札」より徒歩7分、東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅「7番出口」より徒歩10分、京成電鉄京成上野駅より徒歩10分
＊当館には駐車場はございませんので、車でのご案内の際はご注意ください。

8-36 Ueno-Park Taito-ku, Tokyo 110-0007
Time required from the nearest stations: (1) 7 min walking from JR Ueno Station "Park Gate", (2) 10 min walking from Ueno Station "Exit 7", Tokyo Metro Ginza Line, Hibiya Line. (3) 10 min walking from Keisei Line Keisei Ueno Station.
*No parking area, so please refrain from coming by car.

<https://www.tobikan.jp>



タと呼ばれる針仕事に共鳴した望月真理（1926～2023）。
本展では、以上の大正末から現在にいたる国内の5名の刺し手たちの活動をみつめます。それぞれが手を動かし、布の上にすくい上げた「私たち」と向き合うことで、針と糸というシンプルな道具とともに続けられてきたこのいとなみの意味と可能性について、考える機会となれば幸いです。



岡田美佳《ハーブの庭》（部分）
1996年、作家蔵



望月真理《象は森の王様》（部分）
2020年頃、個人蔵

伏木庸平《こもんべ》（部分）
2023～2024年、作家蔵

刺繍
針がすくいだす世界

休室日＝12/1㊤、15㊤、12/22㊤-1/3㊤、1/5㊤
閉室時間＝9:30-17:30（金曜日は20:00まで）
＊入室は閉室の30分前まで
会場＝東京都美術館 ギャラリーA・C
主催＝東京都美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）
観覧料＝一般800円、65歳以上500円、学生・18歳以下無料

＊身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方（1名まで）は無料。＊いずれも証明できるものをご提示ください。＊都内の小学・中学・高校生ならびにこれらに準ずる者とその引率の教員が学校教育活動として観覧するときは無料（事前申請が必要）。＊同時期開催の特別展「ゴッホ展 家族がつないだ画家の夢」のチケット提示にて入場無料。

Period: November 18 (Tue), 2025 – January 8 (Thu), 2026
closed: December 1, 15, 2025; December 22, 2025-January 3, 2026; January 5, 2026
Hours: 9:30 – 17:30 (Until 20:00 on Fridays) Final admission 30 minutes before closing
Venue: Tokyo Metropolitan Art Museum Gallery A, C
Organized by: Tokyo Metropolitan Art Museum operated by Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture
Admission: General ¥800 / Seniors 65 + ¥500
*Admission free for visitors under 18 years old, as well as College students and High school students or younger.

公式サイト https://www.tobikan.jp/2025_uenoartistproject/



尾上雅野《秋》
1974年（公財）日本手芸普及協会蔵



This is the 9th in a series of exhibitions introducing artists who are active in the Public Entry Exhibitions. This time, the exhibition will feature creators who pursue expression by means of techniques such as “embroidery” that use a needle to pierce cloth and stitch yarn or thread.

2025 11/18㊤ 2026 1/8㊤

平野利太郎《サボテン》
1955年、町田市立博物館蔵



音声コード
Uni voice